

## 災害時SNS利用WG

### WGの目的

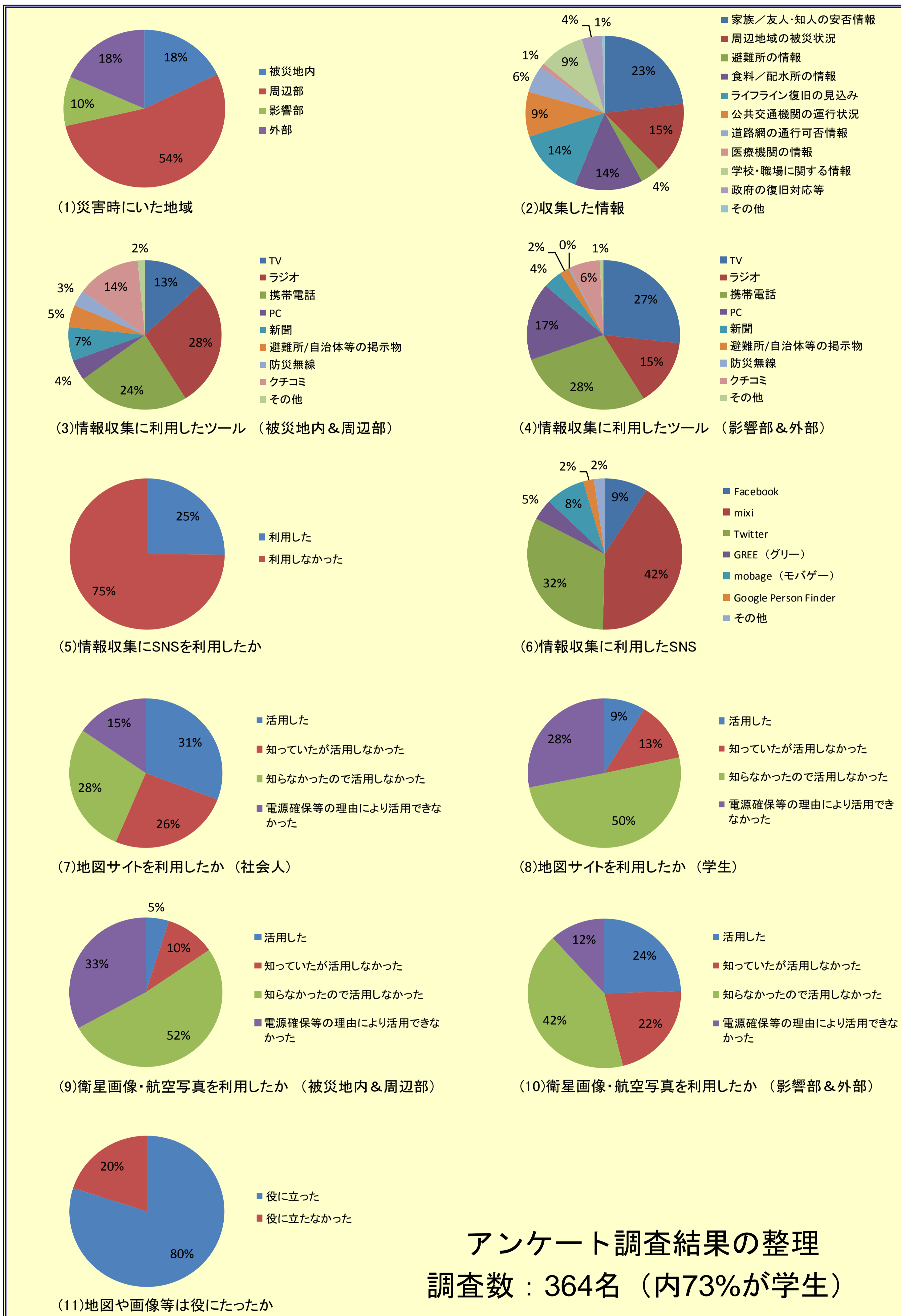
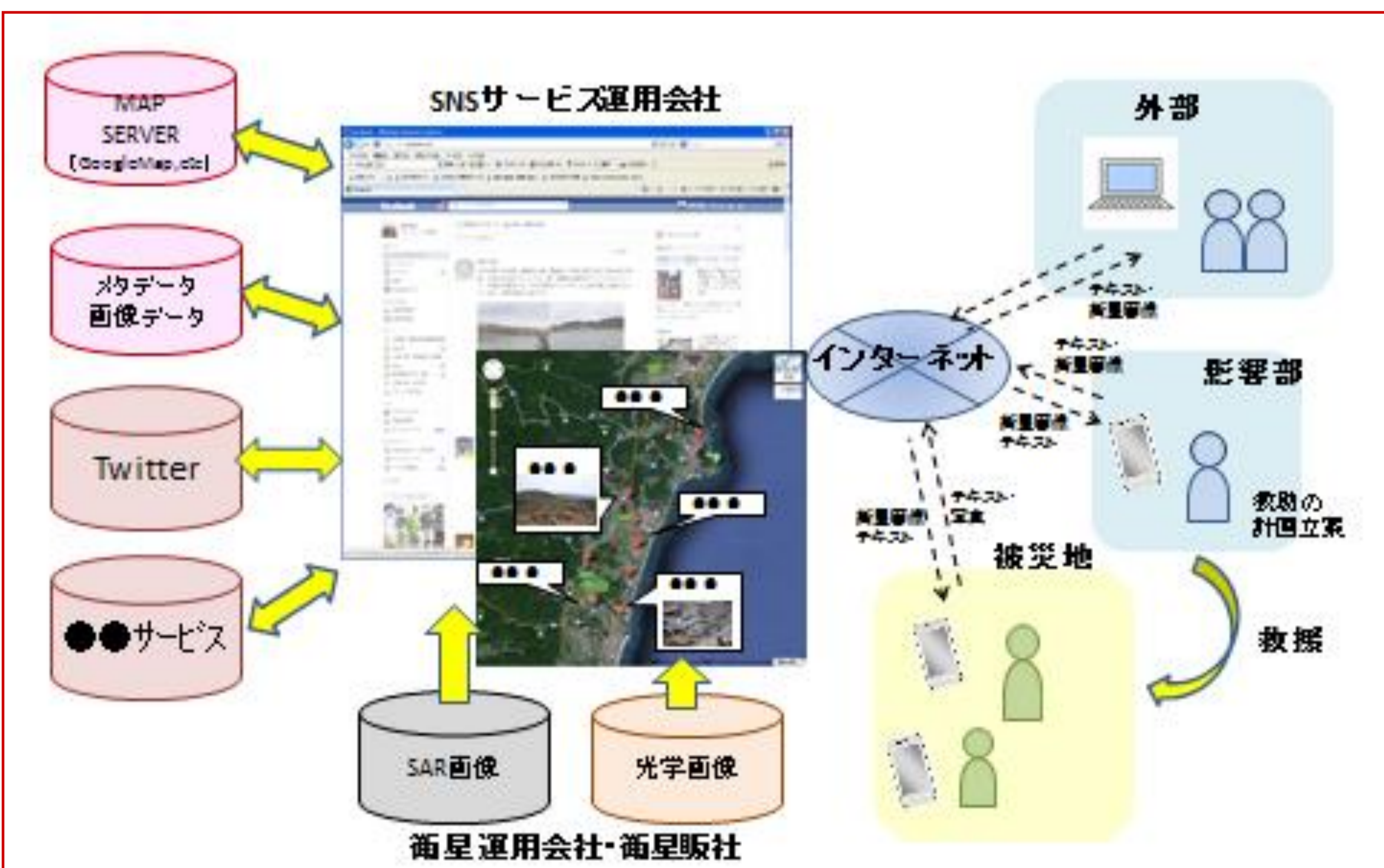
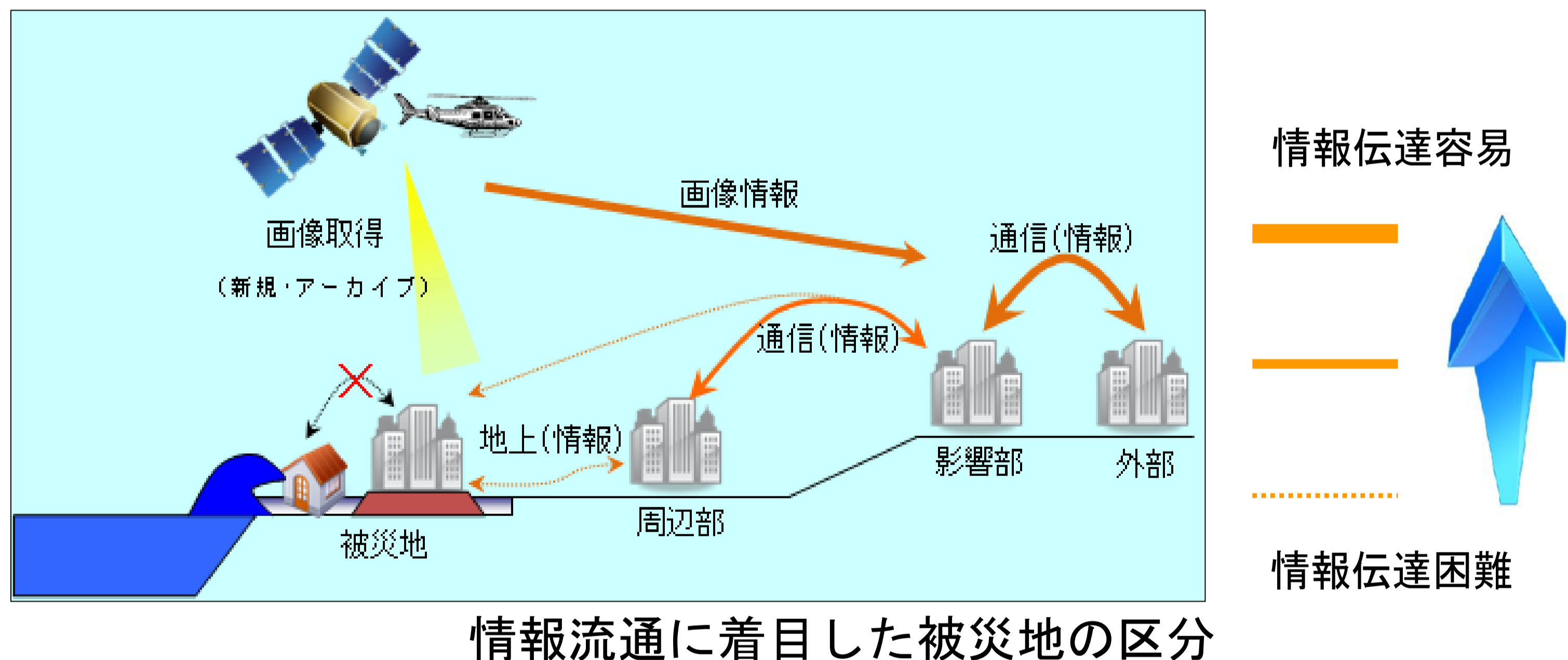
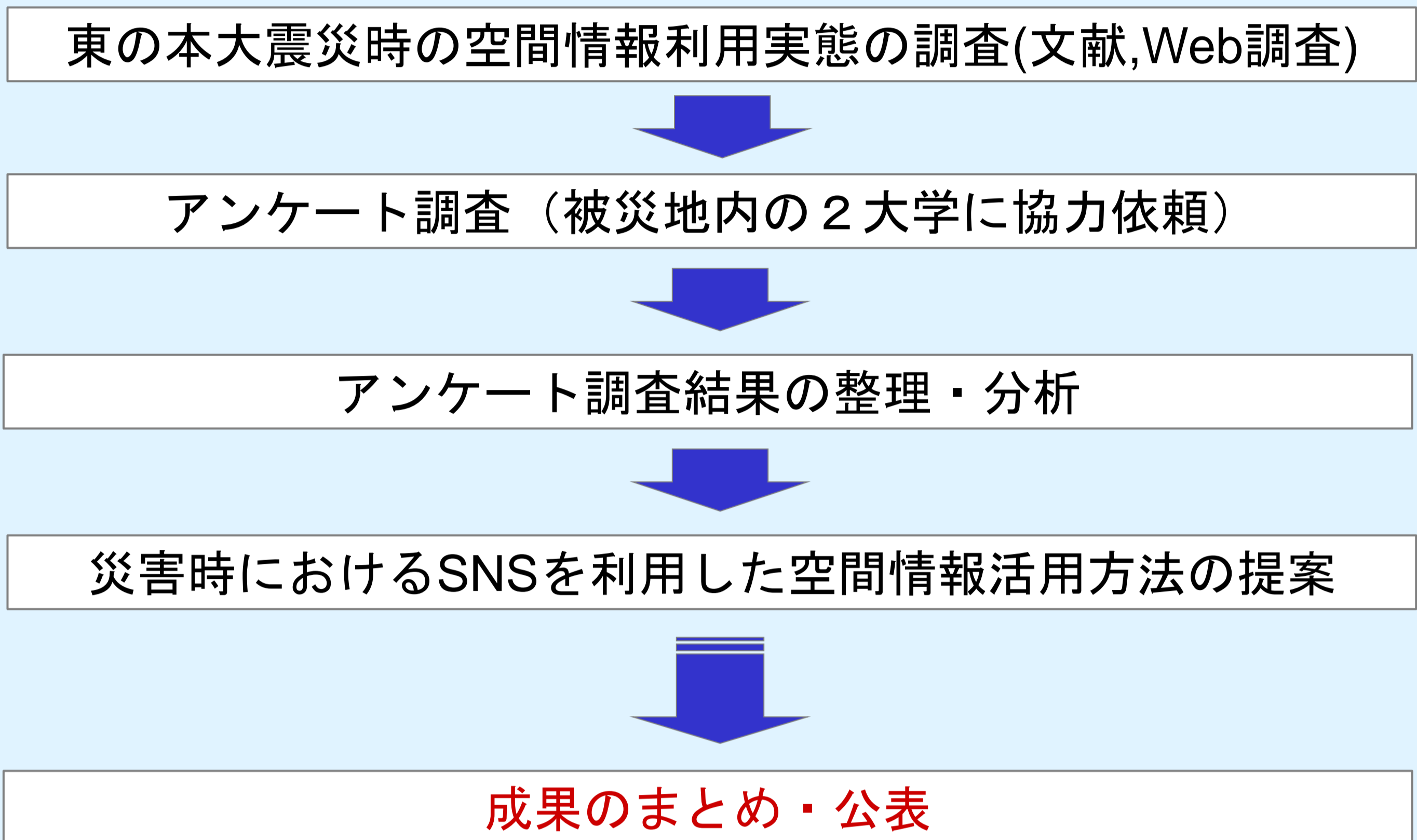
(リーダー：安藤ハザマ 笠博義 E-mail : kasa.hiroyoshi@ad-hzm.co.jp)

災害時SNS利用WGは、巨大災害時の救助・救援から初期の復旧段階における空間情報と情報プラットフォームの利用に関して、「本当に必要としている人へ必要な情報を確実に届ける」ための情報流通のあり方とそのため工夫を検討し、特に災害時のSNSと空間情報の活用可能性を検討して、学会を通じて社会に発信していくことを目的として活動を進めています。具体的な活動内容は以下の通りです。

- ①大規模災害時における情報流通の課題の分析：東日本大震災の被災地における情報流通についてのアンケート調査を行い、特にSNSの活用と衛星データをはじめとする空間情報の利用実態および課題について整理・分析を行う。この調査では、情報伝達の観点から、「被災地→周辺部→影響部→外部」の4つの区域を設定し、こうした地域による相違に着目し、調査対象もSNSを積極的に利用している学生を中心としている。
- ②大規模災害時のSNSを利用した空間情報の活用方法の提案：上記の調査結果をもとに、大規模災害時において、現場で役に立つ空間情報の活用方法として、SNSを利用した方策の提案を行う。

これらの研究成果は、リモートセンシング学会の研究成果の一つとして、横幹連合シンポジウム等へ発表するとともに、順次、本学会の学会誌にも投稿していく予定です。

### 研究活動の流れ



アンケート調査結果の整理  
調査数：364名（内73%が学生）

### アンケート結果のまとめ

- ①求められている情報：家族・知人等の安否情報、被災地・周辺部では避難所・食料・水等の確保に関する情報
- ②情報収集の手段：被災地・周辺部ではラジオ、解体電話、口コミ
- ③情報収集でのSNSの利用：役1/4が活用（電源、通信途絶により利用できないケースも多々あり）
- ④地図情報の利用：利用者は社会人ほど多く、学生は少ない（災害時に有効な利用方法の教育が必要）
- ⑤衛星データ等の利用：15-25%と少ないが、利用者の75%は有効と評価
- ⑥自由記入による意見：電源の確保、操作性のよいソフト、最新の画像情報への更新、必要な情報の迅速な掲載が必要

### 提案の概要

最新の空間情報をベースマップに、情報提供者が自由に必要な事項をマップ上の位置と関連付けて提供するシステム。被災地・周辺部では被害状況や要救助者の数、必要な物資、周辺の道路状況などを発信し、外部・影響部ではそれをもとにした救助計画の立案などを行う。用いるソフトは直感的に利用できる簡易なもので、煩雑なユーザ登録手続きなどは必要としないものとする。配信される画像情報は特別の処理・解析を施したのではなく、判読に適するものとする。

### 【参考文献】

1) 笠, 小島, 伊東: 大規模災害時におけるSNSによる空間情報の活用, 第4回横幹連合総合シンポジウム予稿集, pp.125-126, 2012.11.  
2) 笠, 伊東: 大規模災害時における空間情報活用に関する一提案, 第5回横幹連合コンファレンス (投稿中), 2013